

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームオニオンコート（ゆり）	評価実施年月日	平成20年10月14日
評価実施構成員氏名	若山美智子・加藤美由紀・斉藤千幸子・西科政子・山中利子・工藤陽介・木谷ひろみ・森地真佐子		
記録者氏名	藤田 まゆみ	記録年月日	平成20年10月14日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	認知症や要介護状態であっても、共同生活を通じ、家庭的な環境の下、日常生活のケア、健康管理、相談、援助等を行うことにより、利用者が有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう努めている。	○	今後も継続していきたい。
○理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「もっと楽しく、もっと美味しく、もっと美しく」という基本理念の下、利用者が心身共に安らかな日々を過ごしていただけるよう日々工夫、努力している。	○	お客様に高い満足が得られる様、職員同士が同じ目標に向かって「チームワーク」を高め、日々努力していく。
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	盆踊りやクリスマス会等の行事を家族、地域の方と一緒に参加することで、施設の役割を理解していただけるよう努めた。話し合いの場を提供する為、家族懇談会を開き、意見の交換、説明を行っている。	○	コンサート、季節の大きなイベント等は家族、近隣の住民の方々へ案内をさせていただいている。ホームのパンフレット等見易い所に設置してある。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所との交流は少ないが、面会に来られるご家族との交流の中で、ホーム内にて「そば打ち」を披露してくださり、皆さん大変喜ばれていた。	○	運営推進会議の活用や、日々のご家族との関わりの中で信頼関係を築き、今後もこのような交流ができる様、馴染みの関係が保てる努力をしていきたい。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	中央区のいけばな展や、花川のコンサート等、ご案内を頂くことで、地域の行事に参加でき、普段体験することのできない雰囲気を皆さん楽しまれていた。 百合が原小学校との交流（運動会見学、生徒訪問）	○	施設からの行事のご案内、地域からの行事のご案内等情報の交換を行い、今後も交流の場を増やしていきたい。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	これからの課題として努めたい。	○	子供SOSの家などへの協賛等。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全体で取り組んでいる。	○	職員だけではなく、家族、入居者等、誰もが評価表を見ることができるよう、エレベーター横の目に付く場所に保管し、いつでも活用できるようにしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を実施し、取り組みを報告。参加者からの意見を基に改善したことも多い。	○	今後も継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村へ行き来する機会は少ない為、今後もアプローチをしていきたい。	○	今後も継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修の機会を設け、成年後見制度について学ぶ機会を持つようにしている。	○	今後も継続していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	施設内研修を実施して、意識を高めている。	○	今後も虐待についての事を学んでいきたい。何気ない仕草や言葉等で相手に誤解を招くこともある為、常に入居者の立場に立って関わるよう心掛けた。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項は読みながら、不安、質問点には納得が図れるように説明し、連携体制（医療、趣味活動、行事等）も説明させていただいている。	○	説明の実行、同意を図る努力を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	カウンターに意見ボックスを設置している。 入居者の意見等は日頃よりコミュニケーションを多く取り、傾聴対応し、意見を反映できる様努めている。	○	入居者の希望に沿う様、お手伝いの役割分担を決めたり、散歩する機会を多く設ける等、意見を反映できる様努めた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が面会に来られた際、近況の報告をしたり、状態の変化等あった場合は電話連絡も行っている。	○	今後も継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	カウンターに意見ボックスを設置している。定期的に家族懇談会を実施し、意見交換の場を設けている。意見等は議事録等に残し、職員全体が把握するように努めた。	○	今後も継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホームでも7月に職員会議を実施し、意見交換やケアの統一性を見直した。	○	今後も職員のケアに対する意識を高める為にも、必要ではないか。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	フリーの勤務を増やしたり、職員の休憩時間をずらす等、必要な時間に職員が対応できる様努めた。	○	必要に応じ、マンツーマン対応も活用している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	定期的に面談もあり、支えるフォロー体制が作られている。信頼の関わりができる様配慮している。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	何か分からないことがあっても、質問がすぐにできる環境がある。また、施設内研修も行っている。	○	今後も継続していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区のグループホーム連絡会での研修会もあり、交流も兼ね、多く利用できる様努めたい。	○	今後も継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	福祉厚生事業など利用し、サービスを受けられる。	○	今後も継続していきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得に向けてのパンフレット等を見る機会が多く、意識が高まっている。	○	レベルアップと向上心を持ち、今後も継続していきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	日頃よりコミュニケーションを多くとる様心掛けている。	○	入居者の様子を観察し、いつもと違う表情等見られた場合は、こちらから声を掛け傾聴対応を行う等、いつでも話す機会、聞く機会をつくるようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の面会の際には、こちらからの近況報告をしながら、ご家族からの話も聴く等話易い環境作りに努めている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在のホームでの出来る事を明確に説明するよう努め、ニーズに合わせて関連する支援センター等、状況に合わせて紹介するようにしている。	○	今後も継続していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染みの関係ができるまでは、急な環境変化による不安感が生じないように、家族との連絡等にもこまめに気配りを行い、馴染んでいただけるよう努める。	○	今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理や四季折々の年間行事の慣わし等、会話の中から学ぶことも多い。	○	経験豊かな入居者の知恵を頂いたり、学ばしていただくことも多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常生活の様子や本人の希望等、来所時等こまめに機会を作り、情報を交換できる様努めている。	○	普段の様子など伝えるようにして、一緒に支えていることを実感していただく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事等には参加して頂けるようお誘いをしている。	○	入居者のお誕生日等にも参加して頂けるようアプローチしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人希望の美容室に家族対応でお連れいただくこと等を実施している。	○	入居者の意向も聞きながら、家族等へアプローチしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の関わりの中で、利用者の一人一人について、観察、職員間の情報交換を行い、気の合う方、合わない方の席やお手伝いの声掛け等、職員が配慮、臨機応変に対応し、トラブルの防止を図っている。	○	入居者同士のトラブル防止のため、お手伝いに関する日課表の作成。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じて、支援を継続していくよう心掛けている。	○	今後も継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好きな時間に起床したり、夜遅くまでテレビ鑑賞する等、利用者の思い思いに時間を使っている。また、花が好きな人にはフラワーアレンジメント、身体を動かすのが好きな人には散歩やボール投げ等、個々の思いに合った支援を提供している。	○	今後も継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の本人、家族からの情報の他に入所後も本人家族との会話の中から把握し、日常生活の中で取り入れできることは、職員同士情報共有し支援している。	○	今後も継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員担当制とし、一人一人の状態の把握に努めている。また、職員同士情報共有し支援している。	○	個々の特技、趣味を活かすことができる様努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、ケース会議により、個別性を重視したケアプランの作成に努めている。	○	事前にご本人の現状など情報を多く集めることに努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた場合、ケース会議、カンファレンスを開き、サービス内容の見直しをしている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	変化が生じた場合、ケース会議、カンファレンスを開き、サービス内容の見直しをしている。	○	今後も継続していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの多機能性を活かしていきたい。 同一敷地内の施設の活用	○	今後も継続していきたい。 ショートステイ等のサービスの実施を視野に入れ、今後検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の幼稚園や小学校の運動会に参加させていただいたり、中学生が社会見学として現場を見にきている。	○	今後も地域と交わることを検討していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	常に意識を持ち関わっている。	○	社会資源を多く活用することを常に意識して努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	常に意識を持ち、関わりを持っている。	○	今後も継続していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医に受診の際は、日常の様子、バイタル等の情報を提供している。	○	入所前からのかかりつけ医を希望される方は、本人、家族の希望にそって対応している。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科への定期受診を継続し、受診する事前に医師に状況説明を行っている。	○	定期的に往診もあり、助言を受けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	すぐ隣に母体となる病院がある為、月に一回は定期受診をし、馴染みのある看護師が対応している。必要に応じ、昼夜問わず、相談が可能で、医師への連絡助言を受け、支援している。	○	定期受診時、夜間の特変時など、相談が可能であり実施している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が安心して入院生活を送っていただけるよう、ご家族、病院、その他関係者との連絡をこまめにするよう努めている。	○	早期退院によるリハビリ通院支援を行っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	職員対応にて、家族、医療機関への早急な連絡を実施している。	○	医療機関との早急な連絡を行うことなど、今後も連携を図っていききたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人、家族の意向を踏まえ、専門医との連携を図るよう努めたい。	○	医療機関との密なる連携を図っていききたい。
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	必要な支援は努めていききたい。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	常に入居者の立場に立った声掛けを心掛けている。個人日誌等プライバシーに関わる物は、入居者の目につかない場所に保管している。	○	個室への訪問時は、ドアノック、タンス等開ける際は、本人立合い説明、許可をいただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	うまく聞き取れない方には筆談を通し説明をした。また、外出、日課活動へのお誘いも遠慮することのないよう配慮した。	○	ご本人の理解できる力に合わせた働きかけ、ご本人がしたいことを決め、また自発的になっていただけるような声掛けをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の生活リズムを把握し、自由に穏やかな生活が送れるよう心掛けている。	○	個々のその時の気持ち、気分など把握し、必要であればマンツーマン対応を行い、楽しく穏やかな時間を過ごしていただける様、今後も努めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容、美容室月4回あり、多数利用されている。気分転換のため、時折お化粧品やマニキュアなどしていただいている。	○	不定期にお化粧品を楽しんだり、マニキュアをして外出、行事に参加して気分転換できるよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け、お茶いれ、食器拭きなど快くしていただいている。ゆったりと食事をしていただけるよう、音楽を流し楽しんでいただいている。	○	食器拭き等の際は、マンツーマンで会話を楽しみながら共同作業を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人やご家族に好む物を聞き、飲み物など提供している。	○	今後も継続していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、声掛けし、トイレへ誘導している。	○	排泄の失敗などで落ち込まないよう、声掛けを行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の体調に気を配りながら、できるだけ希望に合わせ、入浴していただいている。毎日入浴できる様体制をとっている。	○	個々の入浴の実施により、職員とのスキンシップ（唄や談話等）が取れ、楽しい入浴を支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している。	本人の状態、希望に沿うように 配慮している。	○	必要に応じ、専門医へ受診、指 導を受けるなど、個々の生活 パターンの維持に努めている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、楽しみ ごと、気晴らしの支援をしている。	共同、または個別対応にて趣味、 レク、家事を共にしている。	○	気分転換に喫茶、移動売店、ゲ ーム、図書コーナーを利用し ている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	移動売店、ショッピングの際は、 職員見守りにて品定めから会計 までご本人にしている。	○	今後も継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している。	中庭まで散歩し、野菜や花に触 れたり、週1回ショッピングへ出 かける機会をつくり、買い物や 甘い物を食べたりと、常に戸外 に出かけられるよう支援してい る。	○	個々の希望に沿う様、今後も ショッピング、外食等支援に 努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支 援 一人ひとりが行ってみたい普段 は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族とともに 出かけられる機会をつくり、支 援している。	状態に合わせ、団体、少人数と 個別対応でも行っている。 (チョコレートファクトリー、さ とらんど、テレビ塔、外食、百 合が原公園、大通り公園等)	○	楽しみにしていただけるよう、 今後も継続していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援をしている。	帰宅願望のある方には、ご家 族に時々お手紙を書いている。 本人の希望にて、特養の公衆 電話を利用し、ご家族に連絡 を取る方がいる。	○	今後も継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支 援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	基本的に入居者の自室にて過 ごしていただいている。また、 職員も挨拶等忘れず行ってい る。	○	家族等からの意見も大切に していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の禁止について、職員は委員会等により周知把握している。	○	身体状態に合ったベットやイスを使用し、今後も全てにおいて身体拘束をしないケアに取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者側からは、鍵をかけられるが、反対側からはかけられない。また、誤って鍵をかけた場合でもマスターキーを管理している。	○	今後も継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在確認をしながら、プライバシーにも配慮し、夜間は1時間毎の巡回見回りを行っている。	○	コールマットの活用や、トイレ、布団、靴に鈴を付けるなどで、起きだしに少しでも早く気づけるよう安全に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々のADLに合わせ、設置場所等に気を配っている。	○	包丁、洗剤類、ポリデントなど手の届きにくい所や鍵をかける等対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットだけではなく、ずっこけ、ずり落ち記録や、服薬ミス記録等、細かく記録を分けることで、小さな事故から一つ一つ意識を強め、再発の防止、大きな事故に繋がらないよう努めている。	○	今後も継続し、事故防止に努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急連絡網の作成や、月1回程の委員会を実施。	○	マニュアルを活用し、習読している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を行っている。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	個別ケース記録の活用とケース検討により、日常変化を観察し、家族の理解をいただけるように努めている。	○	面会時を活用し、近況、身体の状態等を伝えている、また、電話にてお知らせすることを意識している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調不良を発見した場合、バイタル測定を行い、経過を記録すると共に必要であれば速やかに医師の診断を受けるよう対応を行っている。	○	常に体調変化の早期発見に努め、特変時には速やかに専門医への受診、相談を実施、対応に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診内容、服薬内容を個別にノートを活用し把握している。また、服薬に変化があった場合は、ミーティングノートも活用し、職員全員が把握し状態観察を行っている。	○	今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量、運動の声掛け、朝食後の排泄誘導を心掛けている。	○	できるだけ、自然排便が可能になるよう、水分や食品（乳製品等）のバランスを考え、心掛けている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、義歯の洗浄を行い、うがい、口腔ケア用品を個々に合わせ用いるなど清潔に努めている。	○	今後も継続すると共に、必要に応じ歯科の受診ができるよう対応を行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事形態に合わせ、刻みか茶ゼリー、とろみ付け、栄養士による献立、個人の好みによる食事・水分摂取と個別チェック表の記入。	○	摂取状態により、とろみ、刻み、ゼリーと形態の工夫を行い、無理のないよう気配りを行っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	委員会、マニュアルにて対応、対策の周知。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品の十分な加熱、毎日調理用具の消毒を徹底している。	○	まな板、布きん、おしぼり、テーブル、台所周り全般の消毒を毎日行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	車椅子の出入りもしやすいよう、スロープ、手すりを設置している。	○	玄関フロアにベンチや椅子を置き、ゆっくりと靴の履き替えができ、また、会話する際、気軽に利用していただけるよう配慮した。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生花、造花、季節ごとの飾りつけ、カレンダー等で季節を感じていただけるように努めている。心地良い光、日差しに配慮している。	○	季節を感じていただけるよう、インテリア、生花、造花の飾りつけを入居者と共に行い装飾している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人掛けの椅子、ソファを配置している。 二人掛けの椅子、ソファを配置している。 三人掛けの椅子、ソファを配置している。	○	フロア、リビング、窓側にそれぞれ椅子を配置し、自由に好きな所で過ごしていただけるよう配慮している。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の馴染みの物を配置していただいている。	○	個々の好み、使い慣れた日用品を使用していただけるよう配慮した。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に気を配り、温度、換気を行い、快適に過ごしていただいている。	○	冬期は、加湿機を使用し、適度な温度・湿度を保っている。定期的に換気、空気の入替えを行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーにより安全な歩行、車椅子移動ができる。	○	車椅子、歩行器使用者が自力で動き易くなるよう広さに配慮し、手すりを取り付けている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の会話をしっかり傾聴し、理解できる様努めている。	○	個人のタンスに靴下等と名前をシールで貼り、極力自分のスペースで自室の整理、必要な物が取り出せる工夫をしている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋外の花壇の手入れを共に行い、楽しんでいる。冬はベランダに「雪だるま」を作り、外出の機会が減るので目でも楽しんで頂けるよう心がけ活かしている。	○	花壇の水やり、草取り等、毎日中庭でベンチテーブルを活用し、本人の好みで外気に触れることを意識している。野外食を実施した。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- ・10月医療連携体制を整備し、隣接の協力機関・特養看護師と連携し24時間体制で、医療・健康面で細やかな対応を行っている。
- ・隣接している母体施設特養の設備（喫茶・機能訓練スペース）の使用や実施している活動（移動売店・各地域幼稚園・小中学校との交流会など）に参加することができる。また、特養・デイサービスと連携を持ち、クラブ活動（フラワーアレンジメント、手芸）、合同行事（盆踊り、敬老会、もちつき等）、合同バスレクにも一緒に参加し普段と違う雰囲気、人々との出会い・交流ができる機会も作っている。
- ・週に一度のショッピングの他、外出、外食へ少人数で出かけている。また、個別対応で公共の乗り物（地下鉄等）の乗り継ぎを体験していただき、社会環境の変化を感じる機会を作っている。